

<水 と 人 >

6月といえば「梅雨」。蒸し暑くなってきた、雨が長く続くとなんとなく気持ちも沈みがちになりますが、植物に目をやると雨粒をうけて新緑が生き生きとしていて生命力を感じる、潤いのある季節でもありますね。

水は全ての生命の源（みなもと）と言われますが、実際、雨が降らないと作物が育たなかったり、水不足で生活するのに困ったりする一方で、豪雨による災害が発生するなど、人は自然の中で生きていることを実感することも多いように思います。

近年、様々なところで行われているSDGs（Sustainable Development Goals＝持続可能な開発目標）の17の目標のうち、6番目の目標は「安全な水とトイレを世界中に」です。上下水道の水道設備の整った日本ではあまり考えられませんが、生活や工場の排水・家畜の糞尿などの混ざった汚水などといった「安全でない水」を飲んでいる人が世界の中には未だ多くいること、特に貧困層の多い地域では、そのような水を使うために小さな子どもが3秒に1人下痢で亡くなっていると言われます。綺麗な水の大切さを改めて感じます。

『カカ・ムラドーナカムラのおじさん』 原作 ガフワラ ～ 薬では貧しさは治せない ～

この本は2019年、支援先のアフガニスタンで銃に撃たれて亡くなった中村哲医師のことを後世に語り継ごうと、アフガニスタンで出版された絵本2冊をまとめたものです。

中村さんはパキスタンでハンセン病を診るために現地へ赴任をした後、アフガニスタンに活動を広げて貧困層の患者を多く診るようになりました。その当時、病気の原因もわからず子どもたちが次々に亡くなっていく事を見ることしかできなかったことに胸を痛め、現地で調査してその原因が「水」であることを突き止めます。日本の関係機関に支援を求めましたが、なかなか協力してもらえなかったため、中村さんは現地の人と協力し、また自らも重機を動かして村へ用水路をひく工事を始めました。中村さんが人々の健康のためにとひいた用水路は病気だけでなく、やせていた土地を潤し、現地の人が農業で収入を得るためにも役にたちました。

中村さんは自分に出来ることを探し、行動し、多くの人を救いました。活動の途中で亡くなられましたが、アフガニスタンでの追悼式では大統領自らが中村さんの棺を担ぎ、多くの国民が偲んだと伝えられました。人々が平和で安全に暮らせる世の中になって欲しいと願います・・・

中村さんの言葉より

「平和には戦争以上の力があり、平和には戦争以上の忍耐と努力がいる」



333.8 G

『カカ・ムラドーナカムラのおじさん』
ガフワラ原作 訳・文 さだまさし他

※訳者のさだまさしさんは「ひと粒の麦～Moment～」という

中村さんの歌を作られています。

